

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100204		
法人名	有限会社ゆたか		
事業所名	グループホームゆたかの郷		
所在地	宮崎市高岡町小山田65番地4		
自己評価作成日	令和元年8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和元年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者一人一人の今日までの生活状況や、ご病気・趣味・家族関係や人的環境などの情報をできるだけ、しっかりと収集し、郷で穏やかに、また、その人らしく生活して頂ける様にチームケアにて支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小学校と道を挟んだ位置に立地していることもあり、小学生との交流、運営推進会議に校長先生の参加も得られている。また、地域に必要とされる社会資源づくりを目指し、丁寧な取り組みと努力がなされており、地域住民等からの信頼も得られる運営状況になっている。「入居者優先」の理念を職員が理解し、サービス提供につながっている。何より、地域内の行事、祭りごとなどに入居者・職員共に参加する姿があり、事業所が持っている資源も地域に提供したりしながら頼られる存在になっている。グループホーム内は、明るい雰囲気があり、ゆったりとした時間の流れの中で生活をしている入居者の姿があり、笑い声の聞こえるグループホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝のミーティングでスタッフ全員で理念を輪唱し、理念を意識して、日々のケアの実践を行っている。	職員全員で話し合いの元つくられた理念を玄関入り口等、職員他誰でも目のつきやすい場所に掲示している。毎朝、職員が唱和を行い、実践につなぐ努力がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・施設行事への参加、声掛けを行い地域のサロンの立ち上げに施設が協力し、共存の関係が築けている。	地域に必要とされる事業所を目指し努力を重ねている。地域サロンの立ち上げ協力から始まり、今は入居者を同行して地域サロンに参加できている。小学校とも連携を図り、小学生の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議や地域のサロンの際に、地域の方と利用者が、直接交流を図り認知症の方々を理解して頂く様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で頂いた意見・要望は謙虚に受け止め、スタッフと話し合いできるだけ早急に反映、サービスの向上に繋げている。	小学校の校長も委員として参加してくれる。最近では地域から事業所に対しての協力について意見をもらうことが多くなり、地域の中に受け入れられた事業所として、共に協力し合う関係ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・包括支援センターを窓口、後見人の相談をしたり、介護保険に関しては、市役所の担当者に連絡をとり、内容確認を行っている。	相談事は行政に行き、他の相談機関への紹介を受けたりしながら、協力関係をつないでいる。法テラス等への相談を行いながら、入居者の困りごと解決に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会で拘束をしない介護を確認している。	法人全体で身体拘束委員会をつくり、事例なども用い勉強会を行っている。マニュアルを作り、フォーマットで会議録を残している。言葉の虐待にも細心の注意を払い、気づいたときは職員同士で注意をしながら虐待防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉を意識してご利用者にの意向を尊重し、虐待として見られたり、感じられたりするようなケアはしないようにスタッフ同士、意識し声をかける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域での研修や勉強会に参加できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関する説明は、契約書に沿って具体的に説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時にお話しを頂いたご意見や・地域の交流会にスタッフが参加し意見を交換し頂いた、要望や意見は運営に反映している。	毎日の面会、月に1回程度の面会など、其々であるが、面会の際要望を聞き、個々人のサービス内容にも反映している。また、施設側から伝えることもきちんと伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議・勉強会への参加を促し、又、個人面談を行い、意見や提案を行い又、反映している。会議で出た意見や要望は、職員に周知しサービスの向上に繋げている。	職員会議、勉強会などを毎月行い、必要時は個別に意見を聞き、その都度話し合う機会を設けている。職員からの意見は通りやすい環境にあり、サービスへの反映もなされ、職員の意欲の向上にも役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課表作成時に面談を行い、キャリアパス等を説明して職員のやる気をうながしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・人事考課表を活用し、弱点をなくすように育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域での勉強会や研修会に参加している。研修を通じて他施設と情報交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・時間をつくり、話を聞く機会を設けて信頼関係をつくるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初回面接からご家族の意向を傾聴し、記録を残し、ご家族にも大切と思うことはその都度話し合いを持ち記録を残しておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報収集を十分に行い、スタッフ間の情報の共有を行い、何時でもご家族に気兼ねなく話ができる環境を作る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人のその時々々の不安を解消し、落ち着いて施設での生活を継続して頂けるようにチームケアで対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・状況に応じ施設行事の参加や、外出支援を声掛けし、穏やかに生活して頂ける環境を整える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の会いたい方や、本人を知っている方(地域の方)等に声をかけ、食事やお茶の参加や、地域のサロンに参加している。	入居者と職員が共に地域の行事、サロン等に参加し地域交流を行っている。地域住民が事業所に来訪してお茶のみ交流会なども行われ、馴染みの関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立せずにスタッフが一人ひとりのご利用者さんの人的関係を把握し、間に入り人的環境が円滑に進むように支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご本人の状況に応じてのサービスや医療機関との連携を図りその人にとってより良い支援の助言を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のコミュニケーションやカンファレンスで意向を確認し、本人や家族を交えて話し合いの場を設ける。	本人や家族を交えての話し合いの場を設けている。アセスメントを丁寧に行い、入居者の表情や発する言葉からも意向を汲み取り支援につないでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査や、紹介機関からの情報を把握してサービス計画を作成し、モニタリングをしっかりと行い利用者の精神面や身体面の変化に合わせて、環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員間で情報の共有を行い、その都度、外出支援やドライブ等個別の支援を行っている。又、気づきはその都度記録し反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画を職員間で見直し、勉強会で検討して、実践できる計画書作りをしている。	職員間でカンファレンスを行い、家族からの聞き取りも合わせて介護計画の見直しにつないでいる。できない事ばかりに着目するのではなく、できること、理解できる力などに目を向ける努力をし介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々、記録をしっかりと行い、又、申し送り簿を活用し、日々のミーティングで支援を検討し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・健康状態やADLの低下や福祉用具の見直しなどサービスの多機能の支援も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方々との交流の場を作り、地域の一員としての支援し、サロンや行事に参加を行い、また、地域の方も施設に招待し、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人の状況により主治医を家族とともに検討し、決めている。状況に応じて専門医に受診を行っている。	入居後のかかりつけ医は本人・家族と話し合い決めている。訪問診療医の協力も得られており、看護師も含め安心できる体制になっている。専門医受診が必要な場合も家族と相談し支援できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師はスタッフ間の状況報告や気になることを迅速に判断し、主治医に連絡調整を図り迅速に対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関の連携室と連絡をとり情報の把握を行い、退院の支援を行う。退院に向けてのカンファレンスの計画を迅速に行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・面会時やカンファレンスにおいて、ご家族や本人と話し合いを持ちながらどのような人生の終焉を迎えたいか、また、迎えさせたいかを傾聴し、スタッフの勉強会で情報の共有を行っている。	家族の希望も聞き看取り対応はしているが、終末期で福祉用具の必要性も考慮し、法人内に隣接する有料ホームに移ることもある。管理者・職員は移ったあとも顔を見せる努力をしながら、馴染みの関係を切らないような努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の判断は、日中は出勤者で看護師を中心に適宜な判断で迅速に対応するように指導している。また、夜間は夜勤者が宿直者や管理者に連絡をする。迅速な対応が行えるように指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を実施している。地域との協力体制も整えている。	年に2回、消防署の協力を得て定期訓練ができています。地域住民の協力体制もできており、事業所が避難場所となることも想定して非常用食料、備品の備蓄ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・接遇やプライバシー保護に留意し、本人のプライドを損なうことのないようにスタッフ間でお互いに声掛けをおこないながら対応している。	入居者個々人の呼び名など、家族と相談しその人にあった呼び方をしている。方言の使用も本人の反応等を見ながら、生活してきた地域の言葉を大事にするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご利用者から出た要望は傾聴し早急に受け入れる。職員は情報の共有を行い利用者に自己決定をできるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人の人として周囲に受け入れられ、尊重され、自分で自分の価値を日々感じられるようケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・日々の衣類の選択や、お化粧品等は、本人の意向を大切に、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の嫌いな献立は、代替え食を準備をする。職員と配膳や、一緒に談笑しながら会食を行い、できる方には片づけを手伝ってもらっている。	職員は昼の休憩時間30分を入居者と共に食事をして、同じ物を食べ、会話に入りながら楽しい食事支援につないでいる。個々人のできる、できないを見ながら、できることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養士がカロリー計算を行い、嗜好を大切にして、水分や捕食をおこなっている。又、食事形態も本人の状況に応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後は、必ず口腔ケアをその方にあったケアの支援を行っている。お茶で嗽を促す事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人、一人の排泄状況をトイレ等でその都度記録し、職員間で利用者の排泄の質の向上を認識して、介護用品も検討している。 (布製の物や、パットの種類の中から適宜に選択する等)	排泄状況の理解のため、トイレ内にチェック表を貼り、その都度記録し、排泄パターンの把握に努めている。可能な限り布パンツの使用を勧めるなどひとり一人排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質や、乳製品や、水分の摂取を考慮し、また、体操や歩行訓練や、腹部のマッサージ等、その方に(一人、一人)あった支援を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・毎日実施しているのか。1週に3回の実施は当然であるが、排泄が上手くいかなかった時など、対応している又、入浴の時間も、その時々のご利用者の状況に応じて支援の実施をしている。	あくまでも本人の体調・希望に沿った入浴支援を心がけ、本人の望む時間に入浴を行っている。基本的に毎日でも入浴できる体制をとり、柔軟な対応がなされ、時間の強制はしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・できるだけ、夜間良眠して頂ける様に、日中の余暇対策を個人の嗜好を配慮して過ごして頂いている。又、眠くなるまでは、職員と一緒に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬に関しては、慎重な対応を職員一人、一人に認識を促している。又、状況により、看護師が医師に連絡を行い、受診の指示や、調整の指示を受け、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来ることは、一人、一人満足感や、生活をしていると言う、認識を持って頂ける様に支援を促している。押しつけでなく、役に立っていると言う充実感持って頂く様に対応している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その時、その都度の支援を職員間で連携して、散歩やドライブ等を実施している。又、家族との外出や本人のご意向での、故郷訪問も実施している。施設行事やサロンの協力も頂いている。	歩行困難な方の車いすによる外出散歩を行い、時々ドライブにも出かける。小学校児童の下校時の見守り等、日常的に戸外に出でいける支援をしている。地域サロン、墓参りや買い物などの外出支援も行い、グループ内事業所にも訪問する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金をもたれている方は少ないが、持っていないと不安な方は、その都度、買い物や飲み物の販売機迄支援を行っている。又、施設で立替で欲しい品々の買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・何時でも、電話はかけて頂いたり、職員が本人のご意向を、お伝えしている。手紙に関しては、目の前の郵便局に職員と同行して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・常に、臭いがなく、明るい空間が保てる様に配慮している。又、時代観のある嫁入りタンスをリビングに置き、できるだけ落ち着いた中で生活して頂けるように、配慮している。	共用空間からすぐ外に、草花、野菜などが目に見える。日光もよく入り明るい雰囲気を感じられる。壁には入居者全員の似顔絵が飾られ、ソファの設置もあり、くつろげる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファや、居室での利用者間での会話は利用者一人、一人の意向で対応して頂いている。ソファのレイアウトも配慮を行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の気に入られていた品物は、身の回りに持ってきて頂いている。一人、一人のご意向を把握して、一緒に配置を行う。	個々人の居室に好みのものを持ち込み、其々が生活しやすいように工夫がされている。天気の良い日にはベランダに布団干し、マットレスを立てるなどの配慮がなされて清潔な生活空間づくりと馴染みのある環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・転倒や、自然災害のリスクを常に配慮し安全に生活して頂ける様に職員が認識して支援できる様に環境を整え、事務所のボードを使ったり、申し送りや情報の共有を行い、自立支援を行っている。		